

令和7年度 第2回 学校運営協議会(会議録)

日 時：令和7年9月10日(木) 15:30~17:00

場 所：山梨県立甲府第一高等学校会議室

《次 第》

司会 教頭

1 はじめの言葉(司会)

2 学校長挨拶

- ・暑い中、お集まりいただきありがとうございます。
- ・昨年は台風の影響でオープンスクール、探究科説明会ができなかったが今年は8月30日に実施できた。PTAのご協力もいただき、多くの中学生と接して興味を持ってもらえたという手応えがある。
- ・今年度は趣向を変えて部活動を見ていただいた。より身近に高校或いは高校生を感じてもらえたかと思う。
- ・広報誌「FirstStep」を生徒に出身中学校へ届けてもらい。学校生活について母校に紹介してもらった。だいぶ賑やかに一高を紹介してくれたグループもあったようである。
- ・来週から前期末試験がありそれが終わると、いよいよ強行遠足がやってきます。
- ・インターハイに4部、総合文化祭に4部が出場した。

3 会長挨拶

- ・私事だが3月で公務はすべておわりにした。
- ・現在は農業に勤しんでいる。
- ・円滑な議事の進行にご協力を。

4 議事【議長 会長】

- ・事前に資料が送られているので、円滑な議事の進行にご協力ください。

(1) いじめ対策について	(4) 生徒会活動について
(2) 学校評価について	(5) 探究科の状況について
(3) 学校行事について	(6) WWLについて
- ・以上 資料に基づき教頭より概要説明。

(1) いじめ対策について

- ・いじめアンケートの取り方について

⇒生徒は配布された用紙・封筒を持ち帰り、回答したのち、封入厳封して提出。記名式。

(2) 学校評価について

- ・今回は学校評価アンケートの自由記述欄の記述(改善要求)に対して1つ1つに回答した。できること、やっていることについては実現の見通しも含めて説明し、できないこと、学校としてやらないことについてはその理由等も含めて回答した。

働き方改革について

- ・生徒の自主性・主体性を育てていることが生徒も実感できている

自由記述の回答で、できることとできないことを明らかにしたのは良いこと

はたらき方改革でワークライフバランスの評価が低い改革をさらに進めてほしい

⇒はたらき方改革は大分やってきてこの結果である。学校の体制がそこまで進んでいない。人と金があればできる。大鉈を振らないとこれ以上は難しい

議長：大学はどうか。同様の課題はあるか。

- ・職員（事務職員）は不足している。採用では、100人に合格を出しても30～40人程度しか就職しない。より条件の良いところへ逃げてしまう。事務職についてはDX化を進め、AIを活用している。教育もDX化が進み、これからは従来とは全く異なる教育が行われる。

議長：中学校はどうか。

- ・中学校の部活動は地域移行が進んでいる。高校は部活動そのものが特色の学校もあるから単純ではないと思う。

義務教育もDX化を進めようとしているが、どうしても経験に依存した教育が行われていて、その部分は仕事が変わらない。

世代が代わり、教員の意識も変化してきている。部活動に対する意識もやるやらないも含めて変化している。

ただ、改革を進めないことには教員のなり手が出てこない。改革は必要。

- ・それなりの対価があれば不満は出ないのではないかな…

それが出ないから不満が出る。部活動は地域移行してゆくしかないのではないかな。部活動に限らず学校はサービス残業が当たり前となっているが、それはいずれ立ち行かなくなる。先生方の頑張りに依存しているが精神論では解決に結びつかない。目に見える改革が必要。

⇒人がいなければならない所（部活）に十分な人が配置できるようにカバーすべき範囲は縮小し、縮小した範囲内は充実させなくてはならない。

- ・先日高P連の代表として県の「働き改革推進委員会」に出席した。その場で出た話題でもあるが、中学では進んでいるようだが、高等学校の部活動指導の地域移行はできるのか。

⇒厳しいと言わざるを得ない。だから、特に土日の出勤は減らない。遠征試合などもある。

結果を出すことは生徒にとってプラスであるが、現状では私立がどんどん強くなってゆく。

議長：子どもと接することが教員の仕事。子どもが“良かった”と思うのは、教員が子どもと接することで生まれる。…とすると社会体育に丸投げしてよいのかということになる。県が金を出して教員を増やすしかない。結局、人と金がない。しかし、放り出すわけにはいかないからやっている。

- ・中学校は進めてゆく。様々な工夫も必要であるが、最後はお金。行政が予算をどうつけるかにかかってくる。行政が本腰を入れて、主体的に取り組んでもらうしかない。

- ・首長の覚悟が部活動地域移行の成否のカギ。人も金も同時に動かさないと変わらない。首長がその気になれば動き始める。

議長 長：金のかからない話。メリハリをつける。勤務の割り振りで、長期休暇などの際にできるだけ休みを取ってもらうなどの工夫もある。

- ・会社は DX や自動化を導入してトータルで帳尻合わせしているが、人が相手の教育はそうはいかない。時間外の分を長期休暇などにまとめてとるようにしてもらう。勤務時間の付け替えは説明がつけばよいのではないか。
- ・40年間、小中学校の相談を受けて来た。小中学校でも、結局、人と金が不足していたら解決はできない。(金を充てるのは政治だが、) 教育は票に繋がらない。票を入れる人が教育を評価をしていない現状では個別の課題に対してに徐々に動くしかない。政治家は真面目に教育のことを考えてはいないので、「働き方改革」を本質的に進めるのは難しいことである。結局、折り合いをつけてゆくしかない。そのうえで、やはり出来ないモノ・コトはできないとハッキリしてその理由をキチンと説明してゆくことが大切。(できないことまでやってはいけない)

校長 長：実は省力化は進んでいて、高校のDX化も進みつつある。

今後、家庭への通知は、メールで一斉配信する。今年度は後期から成績表も、個別に配信される。

あとは部活動のような人の必要なところに如何に人を配置してゆくかの議論がもう少し必要。

今回、学校評価アンケートの自由記述に対して、回答が必要なものにはすべて回答した。これは諸刃の剣であるということは認識している。とはいえ、生徒、保護者の声を受け止め回答することで、学校の考えを示す機会になっているとも考えている。これはしばらく続けようと思う。この対話により生徒、保護者と学校との距離感に変化があることを期待している。

(3) 学校行事について

- ・一高祭の一般公開をそろそろしてみてもどうか。最初はオープンスクール参加者限定とか…。素の一高を感じられる良い機会だと思う。改革案としては、一高祭の土日開催。公開することで開かれた学校につながる。また、いきなり完全公開ではなく、対象を限定して…例えばオープンスクールに申し込んでくれた中学生とかにするなど、段階的に広げてみてどうか。
- ・一般公開すると学校の負担増は否めない。働き方改革には逆行する。小中は新型コロナを機に縮小し、その状態を維持している。先生方の負担軽減にもなっている。
- ・それにセキュリティの問題が浮上してくる。とはいえ、高校生にとって人に見せるために準備し表現することは自己肯定感の醸成につながる。
- ・一般公開は生徒にとっては良い勉強になる。

⇒保護者・生徒の声は理解している。今後検討して行く。

(4) 生徒会活動について、(5) 探究科の状況について は特になし。

(6) WWL について

- ・WWL については3年間で当初の計画を全て完了できる見込みであり、一定の成果が得られた。
- ・探究活動も成果を上げているが、探究テーマがほとんど社会科学的な内容で商品

開発やイベント開催である。自然科学的な内容も応援して行きたい。

- ・SSH の令和8年度採択を目指したい。SSH は科学人材育成を目指しているが、この「文理融合枠」へ応募したい。これは、理系だけじゃなくて、文系（人文科学・社会科学）の知恵も入れて、総合知を育成して行く。
- ・理系寄りの文系とか文系寄りの理系とか社会のニーズは理系文系の区分けがなくなりつつあるので総合的な人材を育成する。WWL と接続する上で、ご意見をお伺いいただきたい。

≪教頭より≫

- ・SSH の概要、申請理由について説明

議長：採択されると先生方は忙しくなる。

⇒業務が一部の人に偏らないように分担を行う。

- ・山梨大学は2年後に新学環を設置する。文系の学環だが、DX や AI の原理について学ぶ。大学は、理系・文系と分けることを徐々にやめてきている。それは、社会のニーズがあって、両方の知識や技能を持った人材が求められているためである。大学は今後、研究者だけでなく、研究を管理し育て社会実装化に結びつける管理職人材の需要が高まる。

- ・採択されなかったらどうするのか。

⇒それも想定済み。例え採択されなくとも教育課程は来年度から新しい教育課程に移行する。お手元の教育課程表に示したが、理念は変わらない。ただ、お金がつかないので、様々な研修などは思い通りには行かない。

議長：令和8年度がダメだったら9年度にチャレンジということで。

（この後、教育課程表の説明を教頭が行なった）

5 連絡事項

（1）今後の予定

2月18日（水） 第3回 学校運営協議会

6 情報交換、懇談（各委員の方から）

7 閉会の言葉（司会）